平成２８年度　事業計画書

（平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日）

学校法人 九州国際大学

（平成 28 年 3 月 24 日 理事会）

― 目　　次 ―

Ⅰ．基本方針 1

Ⅱ．平成 28 年度予算概要 2
　１．教育活動収支 3
　２．事業活動収支 3
　３．特別収支 4
　４．その他 4

Ⅲ．事業計画・方針
［学校法人］
　１．人事関係 5
　２．施設拡充関係 5
　３．財務関係 6
　４．情報公開 6

［九州国際大学］
　１．教育概要 7
　２．教育支援 9
　３．学生支援 11
　４．就職支援 12
　５．研修事業 13
　６．地域貢献 13
　７．国際交流 14

［九州国際大学付属高等学校］
　１．教育概要 16
　２．クラス編成 17
　３．進路サポート体制 17

［九州国際大学付属中学校］
　１．教育概要 19
　２．教育活動の特色 19
　３．教科目標 20
　４．教育設計 20

Ⅰ．基本方針

［学校法人］

社会を取り巻く環境が大きく変化する中で、地域に立脚した私立学校としての大きな役割を果たしていくことを念頭に、先行き不透明な時代を生き抜く若者を育成することが重要な時代になってきたと認識しております。

教育機関の競争力の源泉である教育・研究の質は、学校のマネジメント能力やガバナンスに依拠しています。したがって、目指すべき方向性を示す明確な旗印を中期経営計画として纏めることで、改革内容を年次計画により具体的に示して内外に発信し、社会的な評価を確保していきたいと考えています。

本法人は、第二期中期経営計画「平成 26 年度～平成 30 年度（5 ヶ年）」において、第一期中期経営計画を持続的に発展させるべく、以下内容を骨子として事業を実施していきます。

戦略Ⅰ　［教育力］：地域に根ざし、地域に必要とされる教育の実践
戦略Ⅱ　［研究力］：地域課題に基づく研究活動の実施
戦略Ⅲ　［社会力］：教職員人材等の地域活動への参加
戦略Ⅳ　［募集力］：本気で学ぶ生徒・学生の獲得を目指した定員充足率の向上
戦略Ⅴ　［経営力］：経営効率化、組織活性化による財政基盤の安定と計画の実行

今後の経営改善計画の実行にあたっては、財務的な裏付けによる経営資源の選択と集中を図り、組織の構成員である教職員が一体となって改革に取り組んでまいります。特に、学校教育の根幹である優れた教職員の育成に努めることはもとより、本格的な私立学校経営の実践とその進捗管理の実施に取り組んでいきます。

［大学・大学院］

九州国際大学では、建学の精神に掲げる「塾的精神」によって互いに切磋琢磨して精神を鍛え、社会に貢献できる人材の育成に力を注いでいます。

大学部門は、3 学部 2 研究科を設置しており、教育・研究活動及び地域貢献活動に基づく「教育の質の向上」、「出口の成果が入り口の水準向上に繋がる好環境の創出」に向けて、“地域に根ざした教育重視の大学”を中期目標に掲げ、教職員が一体となり『第三期中期計画（平成 28 年度～平成 32 年度）』を推進します。大学卒業後に職業人・社会人として自立できるよう学部の教育基盤を更に強化し、「就業力」、「学士力」を育んでまいります。

また、平成 29 年度開設に向けて、既設学部等の改組転換構想（経済学部及び国際関係学部を発展的に改組し、現代ビジネス学部を新設）を検討しており、届出の準備を進めております。構想実現後は、既設の法学部を含め、2 学部 3 学科体制により、“新生・九国”として地域に根ざした教育を展開してまいります。

［中学校・高等学校］

付属中学校・付属高等学校は、平成 22 年度に高等学校の「共学化」という大きな改革を実施して以降、県下トップの志願者を獲得するなど、北九州市域の注目を集めています。今後も、教職員・生徒の力を結集し、「独自性のある」、「活力のある」学校づくりに一層取り組んでまいります。

本校の価値は「授業」であり、それを行う「教師」にあると考えており、授業アンケートや職員研修会を通じて教師力の向上を追及し、「わかりやすい授業」を提供していきます。

今後は、学校評価への取り組みを通じて、“地域ナンバーワンの私学”を目指した改革を実践します。

Ⅱ．平成 28 年度予算概要

本法人の平成 27 年度決算は、基本金組入前当年度収支差額が支出超過の見込みとなり、更なる経営努力が必要と考えております。

平成 28 年度の予算編成は、「スクラップ・アンド・ビルド」の手法で全ての業務及び予算を見直し、部門毎に事業の優先順位を考慮して通常予算を計上しています。そのうえで、大学の既設学部等の改組転換構想に伴う経費及び中学校･高等学校の ICT 教育推進にかかる経費を特別予算として計上しました。

大学部門では、「私立大学等改革総合支援事業」に対応する取り組みを推進し、当該事業のポイント獲得に向けた制度設計を図り、事業採択による収入増加を目指します。

学生・生徒の確保による収入増に努めるとともに、支出の部で大きな割合を占める人件費、奨学費等について、総額（総数）管理を前提とした構造改革を推進します。

学校法人の収入の多角化や調達方法の効率化及び定型業務の集約型アウトソーシングなど、経営合理化についても検討いたします。

また、教育研究施設等の保全・整備については、法令順守や学生・生徒の安心安全を確保するものを最優先とし、実施します。

依然として厳しい予算編成となりますが、選択と集中により、費用対効果を考慮した高い教育サービスの提供に向けて、支援体制の充実に努めてまいります。

平成 28 年度　学校法人九州国際大学
事業活動収支予算書

（単位:百万円）

			当初予算	備考
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	2,278	
		手数料	72	入学検定料等
		寄付金	0	施設整備関係の寄付金以外の寄付金
		経常費等補助金	827	施設関係補助金は特別収支に計上
		付随事業収入	58	寮、エクステンション等の補助活動収入
		雑収入	115	財団交付金、施設設備利用料等
		教育活動収入計	3,350	
	支出	人件費	2,203	退職金含む
		教育研究経費	1,118	
		管理経費	346	事務管理費、学生募集経費
		徴収不能額等	0	
		教育活動支出計	3,667	
	教育活動収支差額		▲ 317	
教育活動外収支	収入	教育活動外収入計	5	受取利息･配当金
	支出	教育活動外支出計	7	借入金等利息
	教育活動外収支差額		▲ 2	
経常収支差額			▲ 319	
特別収支	収入	資産売却差額	0	
		施設設備寄付金	30	
		施設設備補助金	0	
		特別収入計	30	
	支出	特別支出計	0	資産処分差額など
	特別収支差額		30	
予備費			30	
基本金組入前当年度収支差額			▲ 319	旧会計基準の帰属収支差額
基本金組入額合計			▲ 151	
当該年度収支差額			▲ 470	旧会計基準の消費収支差額
事業活動収入計			3,385	
事業活動支出計			3,704	

※1）平成 25 年 4 月 22 日に文部科学省令第 15 号「学校法人会計基準」が公布され、40 年ぶりに会計基準が改正されました。これに伴い、平成 27 年度より、新たな会計基準に沿った計算書類で経理処理等を実施しています。上記事業活動収支計算書は、旧会計基準における消費収支計算書にあたるもので、単年度の収支を 3 つ（教育活動収支･教育活動外収支･特別収支）に区分して示したものです。

※2）単位未満を四捨五入しているため、実際の計算書類の合計と合わない場合があります。

１．教育活動収支

⑴ 教育活動収入

① 学生生徒納付金

入学定員確保を重要課題として募集活動に取り組みます。加えて、退学防止のための教育支援に取り組み、収入減少の抑制に努めます。

② 経常費等補助金

大学部門における私立大学等経常費補助金については、近年、大学改革に連動したメニューが展開されているため、補助金収入を小額で見積っております。教育改革を推進するためにも、原資となる補助事業である「私立大学等改革総合支援事業（採択制）」の採択に努めてまいります。

高等学校・中学校部門における福岡県私立学校経常費補助金は、一定の在学生数を保持しているため、前年並みを見込んでおります。このように、平成 28 度の補助金収入については、各部門の状況及び過去の受給傾向等を考慮して収入計上しています。

③ 付随事業収入

受託研究事業は、自治体・企業・研究機関との連携により、国策・地域政策と合致した実践的研究に参画し、学園の存在意義、評価を高めていきます。また、その他の外部資金（学外研究等）を獲得し、これらを活用した研究スタイルを推進し、研究費調達の多様化を促進します。

寮運営事業について、大学学生寮（紅梅寮）は、留学生やサークル学生に限らず、多様な学生を受入れることで稼動率を上げていきます。高等学校生徒寮（橘寮・華橘寮）は、サークル生を中心としてニーズが高まり、定員に近い入寮生を確保しています。大幅な支出超過とならないよう経費削減に努め、寮生の教育面・生活面をサポートしていきます。

④ 雑収入

施設設備利用料について、学園の PR を兼ねて広く周知し、学校法人の財政基盤の一助となるよう外部の利用を促進いたします。

⑵ 教育活動支出

① 人件費

「前年度賞与支給率の維持」、「非常勤講師経費などの削減」に努め、予算編成方針に基づく数値目標内で予算措置を図っています。引き続き、諸手当及び賞与支給水準見直し等の検討を行い、人件費の抑制に努めていきます。

② 教育研究経費及び管理経費

予算編成方針に基づき経費等を積算し、前年度当初予算と比較して、教育研究経費は微減しました。主な要因は、減価償却資産の償却期間満了に伴う減少等によるものです。一方、管理経費は、微増しております。このうち、通常経費は減少しておりますが、既設学部等の改組転換構想（平成 29 年度開設予定）に係る広報活動費を特別予算として計上していることなどが、増加の主な要因です。

固定費では、電気料金削減のため、平成 27 年度より、新電力会社を含めた複合的契約に変更し、一定の効果が得られています。引き続き、省エネルギー化等に向けた検討を行い、支出構造の合理化を図ります。

２．教育活動外収支

⑴事業活動収入

① 受取利息・配当金

近年は、退職給与引当特定資産の大部分を定期預金で運用しています。減価償却引当特定資産においても安全性を考慮して、普通預金・定期預金・地方債等により運用しています。これら特定目的資産の運用については、平成 28 年度も引き続き銀行預金中心の運用を行い、安全性・流動性を重視します。

なお、長期保有してきた仕組債･社債計 2 銘柄が満期前で償還となったため、平成 28 年度以降の資産運用収入は減収となる見込みです。

３．特別収支

⑴ その他の特別収入

① 施設設備寄付金

魅力ある学園づくりのためには、教育環境の整備が重要となっており、「施設設備拡充及び教育環境整備事業」を目的として寄付金の募集活動を実施しています。平成 26 年 2 月より、寄付金趣意書に基づき 5 ケ年（目標額：1 億円）を目途に継続しています。

４．その他

⑴ 施設設備関係

平野キャンパス多目的グラウンド（人工芝）の整備や枝光キャンパスの耐震補強工事（法令対応）等の複数年にわたる大規模事業が完了し、キャンパスの機能性・利便性が高まりました。

今後は、施設の長寿命化や省エネルギー化に向けて、保有資産を健全に維持していくことが重要と考えております。質の高い教育研究環境の確保に向けた機能向上はもちろん、施設の劣化・損傷に対応する修繕、設備機器の点検保守をはじめとした保全計画の策定に努め、整備・保全費用の平準化に向けた取り組みを強化いたします。

Ⅲ．事業計画・方針

[学校法人]

１．人事関係

(1) 組織改革

事務効率化と学生サービス機能を両立させた事務組織に再構築するため、管理部門及び学生対応事務部門の再編等を検討します。既設学部等の改組転換構想（平成 29 年度開設予定）にあわせて新体制に移行します。

(2) 人事体制

大学の既設学部等の改組転換構想（平成 29 年度開設予定）に則して、少数精鋭の人員体制に移行します。有期雇用契約職員の業務及び雇用形態の見直し、新卒者の定期採用等により、最小限の人員及び適正な年齢構成に是正します。

２．施設拡充関係

(1) 機器・備品整備関係

部門	設置場所	件　名
平野キャンパス（大学）	1 号館	大型バックボードスタンド
	研究棟	出席カードリーダー
	メディアセンター	ブックトラック
	メディアセンター	教育系ファイルサーバー
枝光キャンパス（高等学校）	職員室	非常勤講師用パソコン
	保健室	デジタル体重計
	C 棟	別製線引きホワイトボード
	C 棟	薬品庫
	B 棟	AED 更新
	橘寮	AED 更新
	E 棟	ICT 教育環境整備
枝光キャンパス（中学校）	A 棟	生徒用机・椅子
	A 棟	電源装置
	A 棟	ICT 教育環境整備
	共用棟	防犯カメラ

(2) 施設整備関係

部門	設置場所	件　名
平野キャンパス（大学）	2 号館	照明安定器取替工事
	2 号館	階段スリップ止め補修工事
	3 号館	空調機修理工事
	メディアセンター	自動ドア修理工事
	KIU ホール	氷蓄熱インバーター等取替工事
	B 工区	揚水ポンプユニット取替工事
	B 工区	屋内消火栓配管敷設替え工事
枝光キャンパス（高等学校）（中学校）	B 棟	職員室入口床補修工事
	A 棟・B 棟・C 棟・D 棟	屋上熱源オーバーホール工事
	D 棟	階段シート張替工事
	B 棟	玄関雨漏り補修工事
	第一体育館	アリーナ床補修工事

	第一グラウンド	テニスコート補修工事
	共用棟	消火ポンプ取替工事
	橘寮	給水ポンプユニットオーバーホール
若松グラウンド	若松グラウンド野球場	防球ネット設置工事

(3) 情報・通信機器整備

① グループウェアの更新

教職員が使用しているグループウェアについて、オンプレミス型の製品から、クラウド型サービス「Office 365 Education」に更新します。Office 365 Education は、教育機関向けに無償で提供されているマイクロソフト社の製品であり、クラウドサービスのため、学内でグループウェア専用サーバの設置が不要となることから、グループウェア運用コストの大幅な削減を図ることができます。

平成 27 年度に、教職員や学生への導入・操作説明が完了し、平成 28 年度から新グループウェアの運用を開始いたします。

② ICT 教育環境整備事業（付属高等学校・中学校）

ICT（情報通信技術：Information and Communication Technology）を活用した教育の展開及び文部科学省の「高大接続改革」における能動型学習の推進など、初等・中等教育における授業方法の改革が進展しています。このような背景を受けて、付属高等学校・中学校における今後の ICT を活用した教育方法のあり方、及びこれらを実践できる環境整備計画の策定が急務となっています。平成 28 年度は、試行的段階として教員の教育力向上等を推進する目的で、ICT 教育を実践する環境を整備します。

３．財務関係

適正な予算執行を促すため予算説明会等を開催し、事業着手前の予算措置や規程を遵守した経理手続きに関して啓蒙していきます。一般経費の予算編成に関しては、事業計画の効果予測を検証し、根拠に基づき予算積算しています。建物・構築物・修繕工事・備品等の固定資産取得に関しては、優先度を勘案しつつ、計画的に予算化しています。資産運用については、引き続き定期預金等の安全性の高い運用に努めていきます。また、日本私立学校振興・共済事業団からの借入金は順調に返済しており、当該年度の返済額も約定日までに返済します。

これらを総じて、学園の財政安定化に必要な検討課題に対して、様々な視点から提言を行ってまいります。

４．情報公開

私立学校法第 47 条及び学校教育法施行規則等の一部を改正する省令等の法令に基づき、財務情報・教育研究活動等の情報をホームページ等で積極的に公表していきます。また、「学園情報誌：キュウトビ」や「大学要覧」を発刊し、本学園の取組みや財務情報、学生活動を紹介するなど広く情報提供していきます。

また、「大学ポートレート（私学版）」へ情報公表についても、必要に応じてメンテナンスを実施していきます。

[九州国際大学]

１．教育概要

≪教育改革の方向性≫

大学の教育の質の向上、ガバナンス改革の推進等の背景を受けて、文部科学行政の施策が加速するとともに、大学への社会の期待は高まっています。

産業界から求められる人材を育成するためには、より一層の教育改革が必要であることから、ナンバリングや履修系統図を意識して、科目の配置や体系化に向けたカリキュラム改革を検討し、“地域社会から必要とされる人材”の育成モデル構築に向けた改革を進めてまいります。

(1) 法学部 / 法律学科

法学部では、警察官や行政職員として地域の発展や安全・安心な社会づくりに貢献したいという学生を受け入れる「リスクマネジメントコース」、「資格取得・不動産管理コース」に加え、「キャリアコース」を設置します。これらのコースは、法学部の学生の多くが目指す公務員試験合格、資格取得及び組織運営能力の養成を、より確実なものにしようと生まれたものです。

本学部には、少人数のゼミや課外活動、地域と一緒に課題を解決していく連携活動など、ユニークな教育プログラムがあります。こうした学内外での様々な体験を通して得る知識やコミュニケーション力を育み、業種を限らず、社会へ活躍できる人材として育てていきます。

◆ リスクマネジメントコース ー警察官・公務員を目指すー

警察官、消防士、行政職員に必要な危機管理の考え方と手法を学べます。行政・企業等におけるリスクが増大するなか、将来性の高い分野です。

◆ 資格取得コース ー就職に有利な資格を取るー

宅建や司法書士などの国家資格取得や、法律のスペシャリストを目指す人のロースクール進学をバックアップします。

◆ キャリアコース ー組織運営のスペシャリストを目指すー

学部内に法人組織を設立。学生自らが学んだ法律等を使い、実際に組織を運営することを通じてビジネスに必要な組織運営能力を育成します。全国でも例のない画期的なコースです。

(2) 経済学部 / 経済学科・経営学科

多様化する現代社会で「問題発見能力」、「問題解決能力」を発揮できる人材を育成することが経済学部の教育目標です。そのため、国内外の様々な経済活動を理解できることや、今の国際化や情報化した社会に沿った幅広い教養と専門的知識、さらに、高いコミュニケーション能力を養えるようカリキュラムを工夫しています。

経済学科は、将来、企業や地域社会で活躍したい人のための学科です。経済の理論と知識を修得し、世界と地域の経済を見つめる確かな目と、深い教養、豊かな人間性を身につけた人材を育成します。また、経営管理やマーケティングを学んで、実践的なマネジメント能力や情報・会計のビジネススキルを修得したい人のために、経営学科を設けています。

◆ 地域づくりコース ー 地元企業・地方公務員を目指す ー

より良い社会づくりに貢献できる人材を育成する。それを地元のフィールドを活用して実践するのが

「地域づくりコース」です。知識の習得だけではなく、実践力を育てることを重視した体験型学習。農村の現状を知るための田植え・稲刈り体験や、地元企業へのインターンシップ、さらに、地域再生の歴史や事例、手法を学び、実際にイベントや店舗運営などを通して、地域社会の問題を解決できる力を養います。

◆ ビジネスアカウンティングコース ― 税理士・会計士を目指す ―

専門的な会計の知識を持ったビジネスパーソンを育てるコースです。15 名限定の特別クラスで、4 年間会計学担当の教員が徹底指導します。まず目指すのは、日商簿記検定 2 級の全員合格。さらに 1 級合格者、税理士や公認会計士を目指しての大学院進学というように、エクステンションセンターと連携して知識を蓄積し、原価計算や財務管理など専門科目によって応用力を養い、4 年次では卒業論文に取組みます。こうした一連の学びから、分析結果を明解な文章で表現できる、大卒ならではのプロを育てていきます。

◆ ビジネスリーダーコース ― 実務体験で生きた経営を学ぶ ―

企業経営に必要な知識とスキルを身につけることを目的としているのが「ビジネスリーダーコース」です。家業を継ぐ人や、将来、起業を考えている人はもちろん、各部署のリーダーや経営幹部といった企業の中核を担う人材を育成するための、本格的なプログラムを用意しています。地元企業でのインターンシップや、北九州の企業経営者によるリレー講義など、体験を重視した生きた経営学を学びます。さらに 3 年次では、ビジネスゲームやケーススタディの分析・ディスカッションで、発想力や問題解決力を培っていきます。

◆ 企業人養成コース ―総合職や営業で活躍する企業人を目指す ―

イベントプランニングやビジネスデータ分析などを学び、提案や企画力に優れたビジネスマンを育成していきます。

◆ ビジネス・アスリートコース ―スポーツと勉学の両立を目指す ―

スポーツに関する科目やフィールドワークを多く取り入れた科目が特長で、将来、指導者を目指す人材や経済・経営学の視点から企画・運営を行い、地域に貢献できる人材を育成していきます。

(3) 国際関係学部 / 国際関係学科

近年では、国境を越えた経済・社会のつながりや日本と諸外国との共生が重要な時代となっています。グローバル化が進む世界の中では、他国の文化や社会を理解し、真の国際感覚を養うことが大切です。国際関係学部は、そんな時代と社会の要請に応え、国際教養とグローバルなコミュニケーション能力を備え、真に世界で活躍できる人材の育成を目指します。語学力を磨くのはもちろん、相手の国の文化や社会・経済の仕組みを理解するために、豊富な外国人教員の授業や多彩な海外実習制度など、これまでの学際的教育と外国教育を更に深めていきます。

◆ 英語コース ― 使える英語を身につけるための学習支援 ―

国際関係学部の柱の一つである国際言語運用能力、その中でも 「英語」は「世界共通言語」として最も重要な言語です。英語コースは徹底した英語教育を行います。

到達度別クラス編成で、自分の英語力に適したクラスからスタートし、レベルに応じて段階的に学習していきます。

◆ ハングルコース ― 韓国語と「韓国」を学ぶ ―

ヒトやモノ、情報の流れが広がり続ける日韓両国ではハングル語を駆使できる人材が求められています。ハングルコースは、楽しさと実践的な講義で、需要が高まる韓国語のスペシャリストを育成します。

◆ 観光ビジネスコース ― 実践的アプローチの学習 ―

旅行、ホテル、鉄道などの観光ビジネスを中心とするホスピタリティ産業への就職を目指します。ホスピタリティ産業とは、旅行やホテルのみならず、旅客を扱う鉄道やバス、航空、テーマ・パークなども含まれます。このような分野において求められる能力を培うことができるように、実践的・実務的なアプローチを重視するとともに、関連する資格・検定対策に必要な知識を提供できるようにカリキュラムや支援制度を準備しています。

◆ 国際協力コース ― 協働する技術を学ぶ ―

NGO や NPO、青年海外協力隊や国際関連機関などで将来的に活躍できる人材を育成します。国際関係学部が力を入れるホスピタリティに根ざしたコミュニケーション能力は、まさに国際協力の取り組みに必要とされるものです。語学はもちろん、グループワークなどの参加・体験型学習を通じて対話を積み重ね、国内外での実践的な「実習」を数多く経験していき、教員と学生が二人三脚で取り組んでいきます。

(4) 大学院 / 法学研究科・企業政策研究科

大学院修士課程は、高度専門職業人の養成を目的としての知識と専門性を高めていきます。

法学研究科では、企業や行政の現場で発生する、様々な問題を解決するための法知識の習得を目指します。

企業政策研究科では、経営実務に関する高度な知識、企業を取り巻く外部環境にかかわる専門知識をもつ人材の育成を目指します。

２．教育支援

(1) 入学前教育プログラム

教育の質的保証を確保するメニューの一つとして、推薦入試・AO 入試の入学予定者に対して「基礎学力」を補う目的で入学前教育プログラムを実施します。基礎教育センター所員を中心にオリジナルの「入学前教育テキスト（国語・英語・数学・社会）」を作成し、学習支援を行います。また、「入学前教育スクーリング」を 2 回実施し、大学のキャンパスで入学前教育テキストの解説やプチ講義等を体験し、入学後のスタートに向けて、必要な準備と学習習慣を持続して学生生活がスムーズに始められるように支援します。

(2) 初年次教育

入学者の目的意識の欠如、学力や職業意識の低下により退学者が増加しています。学生の主体的な学びを促進し、学士力を備えた学生を社会に送り出すために、学生一人ひとりを一から育てる教育に取り組んでいます。授業科目の共通教育科目に基礎・情報科目を設置し、必修科目として入門セミナーⅠ・Ⅱを配置することで、大学で学ぶために必要となる読解力や論理的思考力等の基礎的な学修スキルや能力、将来に向けた目標を設定し、社会人基礎力として必要な力を身につけていきます。この授業は、大学における人間関係や居場所の構築のための役割も果たしていきます。

これら取組みの一環として、新入生研修（FM：フレッシャーズ・ミーティング）、体験型学習（フィールドワーク）、学生に応じた目的達成支援（PASS：Project of Achievement Support for Students）を実施していきます。

(3) 基礎学力向上プログラム

本プログラムは、大学カリキュラム内の科目及び公務員受験対策講座、相談ブース（チューター制度）等を複合的に組み合わせ、公務員を目指す共通の目的を持った学生を支援し、公務員合格者の底上げを目指していきます。1年次ではカリキュラムに配置している「教養特殊講義1（国語）・教養特殊講義2（数学）」で基礎学力を養成します。また、チューターが公務員試験ガイダンスや職場見学などを行い、公務員という職業に対して興味を持たせます。2年次では、カリキュラムに配置している「教養特殊講義 3（国語・数学）」で基礎学力を養成し、「キャリアプラン（公務員希望者クラス）」で公務員に必要なスキルを学びます。

同時に、公務員受験対策講座（基礎教養コース）を受講させ、必要に応じてチューターが大学学内の専用ブースにて受験相談、学習相談などを個別に行います。3年次では、カリキュラムに配置している「キャリアプラン実践（公務員希望者クラス）」で公務員試験の学習計画の立案やエントリーシートの書き方など、具体的な受験対策を行います。

さらに、公務員受験対策講座（教養型市役所コース）、公務員受験対策講座（地方上級・国家一般コース）を受講させ、公務員合格者（目標：合格者数30名）を輩出できるようサポートしていきます。

(4) PROG テスト（外部評価試験）の導入

社会人として活躍できる能力「ジェネリックスキル（汎用的な技能）」を測定する PROG テストを全学部に導入しています。PROG テストは、基礎力を「リテラシー」と「コンピテンシー」の 2 つの側面から測定するテストで「リテラシー」とは、知識を基に問題解決にあたる力で、知識の活用力や学び続ける力の素養をみるものです。「コンピテンシー」とは、経験から身に付いた行動特性で、どんな仕事にも移転可能な力の素養をみるものです。この PROG テスト結果の分析を行い、学生個別の力を把握しながら学生の指導に役立てていきます。

また、外部試験を活用し、授業の中で良質な学習体験を提供するなど、大学の教育プログラムの改善に役立てていきます。

(5) 実習科目の推進

海外での体験的な学習機会を設けるために、海外提携校での語学実習、外国事情研修、ボランティア活動等の海外実習科目を開講します。また、国内でのボランティア活動や企業実習等を行う国内実習科目を開講します。

(6) スタディスペースを活用した教育支援

学生が講義の空き時間に訪れ、「オフィスアワー」で待機している教員から講義でわからないところを納得のいくまで教える学習支援に取り組んでいます。学生の動向や相談内容が多様化するなかで、従来の研究室での対応から脱却し、学生が気軽に立寄り、多種多様な相談が可能な空間として、学生生活をサポートするインフォメーション的な役割を、SA（スチューデントアシスタント）、教員、職員が協同で支えていきます。教員への相談だけに留まらず、グループ学習や自主的なミーティングにも利用を

広げていきます。

(7) 基礎教育センター教育支援

高校で学んだ学習内容の復習や大学での基礎科目の復習など、学生一人ひとりに合わせた個別指導やグループ学習による指導で基礎学力向上を支援しています。

入学時に実施するプレイスメントテストの結果に基づき、補習科目を受講する学生のクラス分けを行い、学力不足の学生に学習支援を行います。また、学修生活アドバイザーによる様々な学生の学修・生活面での悩みを解消し、豊かな学生生活を送ることができるよう教育支援を行っていきます。

なお、平成 28 年度より非漢字圏の留学生を対象とした「留学生サポートプログラム」により、留学生の日本語能力向上の学習支援を行います。

(8) ビブリオバトル教育支援

ビブリオバトルとは、参加者が各々5 分で本を紹介し、読みたくなった本（チャンプ本）を投票して順位を決めるスポーツのような書評会です。

本学では、ゼミ教育の一環として、ビブリオバトルを活用した教育支援を実施しており、各種大会への出場を目指して継続的に実施していきます。

(9) ラーニングコモンズ

主体的・創造的な学びのスタイルとして、学生の自律的な学習を支援する目的として、各大学でラーニングコモンズが展開されています。本学においても、ラーニングコモンズの運用を開始し、複数の利用者が集まり、図書館資料を用いて議論を進めていく「教育の場」を提供しています。学修効果を向上するための活用方法やゼミ教育の場としてのあり方を研究しつつ、ビブリオバトル等のプログラムを実践する場としても活用していきます。

３．学生支援

(1) 保護者連絡会の実施

学生の出席状況や学生生活の実態を把握し、成績不振等を解消するために、相談会を実施します。大学側と学生・保護者を交えて質問・相談に応じます。個別成績相談会以外に、就職関連の講演会などを開催することで保護者へ必要な情報を提供していきます。

(2) 課外活動の活性化

サークルの活性化及び加入率の向上を目指すため、新学期の初めに学生自治会と連携を図り、体育系サークルや文化系サークルへの入部を促進（目標：サークル加入率 50%）していきます。

(3) 女子学生への支援

女子教職員と一緒に「女子学生の会」を組織するとともに、女子学生の交流促進のための活動拠点を整備しています。女子学生が主体的に活動し、交流が活発化することにより、大学の魅力を高めてきます。ここでは、「女子」をキーワードとして、様々な企画が実行できるよう支援していきます（目標：イベント開催 8 回/年）。

(4) 学生 FD サミット

「学生 FD サミット」は、全国から学生 FD 活動に取り組む学生・教員・職員が集結し、各大学における成果を発表し、日本の大学教育における課題等について共有し議論する場です。学生の主体的な活動に期待し、教職員がバックアップできる体制を強化していきます。

(5) 学生のニーズ調査

学生満足度を向上させることを目的として、学生自治会主催の連絡協議会（春学期：2 回、秋学期：2 回、計 4 回）を開催し、四協学生（学生自治会、体育会、文化会、大学祭実行委員会）の代表との意見交換を通じて学生のニーズを聴取します。

また、従来から継続して取り組んでいる学生満足度アンケートを実施し、学生のニーズの把握にも努め、学生指導に繋げることで、満足度の向上を目指します。

4．就職支援

(1) キャリア形成支援プログラム「KIU－SPICE」

KIU－SPICE（Kyushu International University Support Program In Career Education の略称）は、本学の教育理念である「理論と実践両面に明るい人材養成」を具体化する形で、入学からの 4 年間を通じ、社会人基礎力、人間力、就職力を身に付けるための正課授業による「キャリア教育」と、学生に自己理解・自己発見の機会と知的刺激を授けるための就職対策支援講座、各種セミナー、模擬試験（基礎学力）、インターンシップなどにより構成される「キャリアサポート」を統合して展開する体系化されたキャリア形成支援プログラムです。本取組は、学生の多様化が進む中で、大学教育の質的保証を図り、学生の主体的人格形成による学士力の確保を目的に、持続的・発展的に取組む事業となっています。平成 27 年度より、1・2 年次生に対して、年間 2～3 回程度の就職支援ガイダンスを行い、低学年からのキャリア意識を更に高めていくよう計画・実施しています。

また、公務員就職希望者の要望に応えるべく、「公務員受験対策総合プログラム（公務員塾）」を開設し、入学時から大学講義と連携した系統的な学修を行い、公務員として働くことを希望している学生の進路実現を目指しています。

(2) エクステンションセンターによるキャリア支援

エクステンションセンターでは、資格取得講座、就職支援・スキルアップ講座、教養講座、その他提携講座など、学生の学習ニーズにあった各種講座を企画し開講しています。平成 28 年度は、年間で 16 講座 36 コースを予定しており、講座の講師には、専門学校講師や実務担当者を中心としたエキスパートを起用し、適切な受験技術や指導法により高い合格率を目指しています。受講メリットは、専門学校より安価な料金設定のうえ、講義時間数も多く、大学に通いながら資格を取得できるばかりか、そのことが同時に就職活動でのアピールにもなります。本学学生にとっては、社会人と一緒に学ぶことで刺激を受け、必然的に社会マナーを修得する機会になり得ると同時に、やる気を起こさせる動機付けの効果も狙えます。また、公務員試験受験対策講座受講生については、大学内に設置された専用ブースにて、チューターによる受験相談、学習内容指導、学習の進捗管理など、より細やかな受験相談が出来るようになっています。

５．研修事業

学校法人九州国際大学職員人事規則に基づき、教職員の能力開発及び資質の向上を目的として恒常的に研修等を実施しています。FD（ファカルティディベロップメント）・SD（スタッフディベロップメント）活動の目的は、教職員の職能開発であることはもとより、教育の質的向上にあります。これまでと同様に「学士課程教育の質的保証」、「初年次教育」等を中心として、各学部・研究科において実施された研修内容を継続的に展開していきます（目標：年間 10 回）。

また、セメスター毎に実施している授業アンケートの分析結果などを踏まえて、FD 委員会・教務委員会において対策を講じ、授業運営の改善を図っていきます。

さらに、研究授業、授業見学及び他大学の先進事例について情報を得る学外研修会等を実施し、FD・SD 活動を発展的に推進していきます。

６．地域貢献

(1)　地域連携センター（サテライトキャンパス）運営事業

大学との地域連携を目的とした組織として「地域連携センター」を設置し、隣接する自治体行政部局との連携を図り、生涯学習の提供や地域研究に邁進いたします。

さらに、これら活動を通じて、新たな人材育成メニューを創出することで、地域と連携した「人づくり」「街づくり」に貢献していきます。

(2) 大学コンソーシアム関門事業

関門地域の高等教育機関が相互に連携・協力し、関門地域の高等教育の充実及び発展を図るとともに、地域社会へ貢献する目的で、参加大学によるオリジナルの講義を提供しています。本学においても、コンソーシアム事業を推進し、講義の提供等を実施していきます。

(3) 地域安全パトロール

本学が位置する八幡東区周辺の治安維持、防災活動及び清掃活動等に貢献し、安全で安心できる「まちづくり」に寄与する目的で地域安全パトロール隊を結成しています。本学職員・学生が、警察・地域防犯ボランティアと連携して、定期的に防犯パトロールを予定（目標：12 回/年）しています。

(4) 前田祇園山笠行事への参画

本学が位置する地元地域では、毎年、前田祇園山笠の山笠巡行、競演会を初めとする祭事がとりおこなわれています。前田祇園山笠の山笠行事は、600 年以上の歴史を有し、遠賀川流域圏で古くから展開されてきたと考えられ、北九州市無形民俗文化財に指定されています。本学は、地域に開かれた大学として、教職員及び学生が主体となってこれら行事へ参画し、地元地域との交流を深めながら、地域貢献していきます。

(5)「つながる絆！八幡」実行委員会への参画

産学官民で組織される「つながる絆！八幡」実行委員会に参画し、11 月下旬に開催される八幡駅前イルミネーション・点灯式の実施のため、学生を中心として地域との連携を強化する活動を実施いたします。自治体、企業、地元住民参加による実行委員会を通して、学生の企画力・運営力を養成できる実践の機会として取り組んでまいります。

(6) Dream100 作文コンテスト

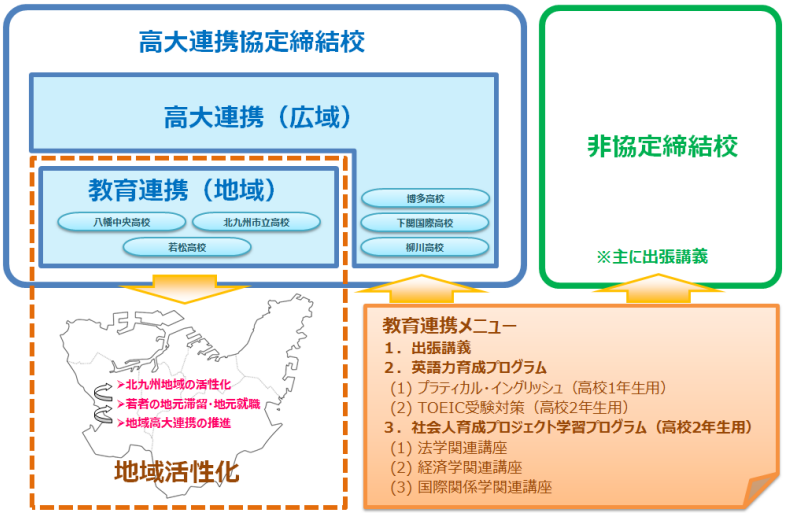
九州・山口の高校生を対象に「Dream100 作文コンテスト」を実施しています。コンテストは開学80 周年の平成 20 年に始まり、高校生の皆さんに、設定されたテーマに基づいて、100 文字以内で自由に思いを綴っていただく事業となっています。この企画は中等教育活性化の一助になることを期待した社会貢献事業であり、継続して実施する予定です。

(7) 英語スピーチコンテスト

全国の高校生を対象として英語スピーチコンテストを実施します。過去のコンテストでは、多くの後援・協賛団体からの御支援を賜り、日頃鍛えた英語力を発揮して、熱意のこもったスピーチが展開されています。この企画は、地球の未来及び国際社会を担うわが国の若者が、国際語である英語を使って自らの考えや主張を表現する場を設け、幅広い世界観を持ち国際性豊かな青少年の育成に寄与することを目的として開催されます。

(8) 高大連携事業

本学では、文部科学省の教育改革（高大接続改革等）や地域課題（三大都市圏への人口流出等）の背景を受けて、3 つの高大連携（①出張講義、②高大連携、③教育連携）を実施しています。地域の子供たちを地域で育み、地元企業での活躍を期待する好循環への一助となることを意図しています。



①出張講義

高等学校からの依頼により、本学の教員が高等学校へ出向き、関心の高いテーマでできるだけわかりやすく講義を行います。これは高校生の「知りたい」、「学びたい」という気持ちを育てようと、地域貢献活動の一環として実施しています。

②高大連携（広域連携）

高等学校から要望された教育テーマに基づいて、本学独自の大学体験プログラムや出張講義を定期的に行い、高等学校と大学による共同で連携教育を行うものです。平成 27 年度に高大連携協定を締結した博多高等学校、下関国際高等学校、柳川高等学校に引き続き、積極的に高大連携事業を展開する予定です。

③教育連携（地域活性化）

北九州市内の高等学校と教育連携を図ることで、地元企業で活躍する人材を地域という枠組みで育成します。地元の人口滞留を図るとともに、かつ地域の活性化を狙いとした取組みとして、平成 26 年度に協定した八幡中央高等学校、平成 27 年度に協定締結した若松高等学校、北九州市立高等学校とともに積極的に展開する予定です。

7．国際交流

(1) 大学連携フォーラム

釜山国際交流財団と北九州市観光協会の支援を受け、大学連携フォーラムを実施いたします。日韓の大学交流の大きな架け橋となり、また本学の国際交流事業の柱となるよう、主体的に事業をコーディネ

ートいたします。

⑵ その他の交流事業

国際的視野を持った人材を養成するため、アジア地域を中心とした諸大学との国際交流を推進しています。海外の諸大学（中国・韓国・台湾・インドネシア）と交流協定を締結し、専攻分野における研究交流や交換留学などを展開しています。

なお、フィリピン・カナダの各大学との交流協定締結に向けた調査・交渉を実施しており、交渉成立後は、海外英語研修プログラムの実習先として企画策定し、研修を実施いたします。

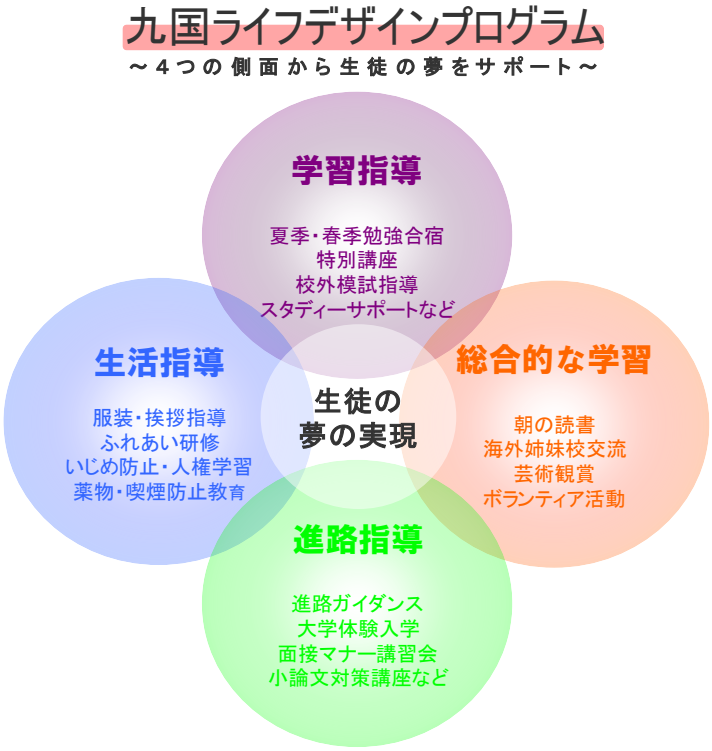
（主な国際交流事業）

- **交換留学制度** ： 協定校への留学（半年又は１年間）
- **認定留学制度** ： アメリカ、中国、韓国、インドネシアの大学に留学（半年又は１年間）
- **海外社会実習** ： 主にアジアの国を訪問先とするスタディツアー
- **海外語学実習** ： 長期休暇を利用した語学留学（アメリカ・オーストラリア）
- **ホスピタリティ交換留学・実習留学** ： 国際関係学部「観光ビジネスコース」の留学制度

［九州国際大学付属高等学校］

１．教育概要

男女共学として生まれ変わった付属高等学校。今まで受け継がれてきた伝統と、北九州屈指の進学・スポーツ実績をもつ学校としての誇りを胸に、より質の高い教育を実現します。新生・九国付が掲げるのは、「知・徳・体」のバランスがとれた人間教育です。高校で過ごす３年間は、将来の基盤となる大事な時期です。学力向上はもちろん、心身ともに健全で社会に貢献できる人間性豊かな人材の育成に努めてまいります。



目指す学校像

- ◆生徒の夢と目標を実現できる進学校
- ◆文武両道を実現する学校
- ◆他を思いやる豊かな心を育む学校
- ◆時代をリードする国際性を育てる学校

九州国際大学付属高等学校の教育 6つの約束

1．社会的マナー教育
豊かな人間性を養うには、礼儀作法が不可欠です。明るく元気な挨拶、高校生らしい清潔感のある身だしなみなど、日常の学校生活を通して礼儀作法やマナーを木目細かく指導し、社会の一員としての自覚を促します。

2．全クラス進学志向
本校では全てのクラスにおいて大学進学を目標に授業を展開しております。生徒一人ひとりの学力や個性を熟知した教師陣が放課後や長期休暇中も全力でサポート。進学意欲をかき立てる土壌が整っています。

3．現役合格へのこだわり
早期から明確な進路目標を掲げ、綿密な学習プログラムを実践。国立大学を初め、志望大学に進んだ卒業生の多くが、授業や各種講座など本校の指導のみで着実に学力を伸ばし、安定した実績をあげています。

4．「やらされる」から「自らやる」へ
向学心を養うには、強制的に「やらされる」のではなく、「自らやる」意欲を引き出すことが大切です。生徒とのコミュニケーションを大切に、親切な指導でやる気を高め、自発的に学べる環境づくりに努めています。

5．幅広い人間教育
本校の伝統でもある豊かな情操教育と道徳教育を推進。いじめや暴力がなく、安心して楽しく学べる環境を守ります。また、ボランティア活動や国際交流など、地域社会との関わりを通して幅広い視野を養います。

6．個性に合わせた進路指導
生徒一人ひとりの個性や適性を大切に、将来まで見据えた手厚い進路指導を実施。豊富なデータをもとに学級担任・教科担当・進路指導教員が連携してサポート。それぞれの希望に応じて最適な指導を実施していきます。

２．クラス編成

クラス	概要
難関クラス	少数精鋭でハイレベルな授業を実践する難関クラス。東京大学、京都大学、九州大学や医歯薬系の難関大学への現役合格を目指し、高度かつ綿密な指導を行います。社会常識やマナーも身につけ、確かな学力と豊かな人間性を兼ね備えた人材を育成します。クラブ活動への参加も可能です。
Ｓ特クラス	Ｓ特進クラスは、九国付の最上位である難関クラスと常に良い競争意識をもち合っています。同じ校内に互いを高め合えるライバルがいるからこそ、緊張感をもった学習を継続することができます。Ｓクラスと難関クラスは九国付のツートップです。
特進クラス	国公立大学への進学を目標に、現役合格を目指す特進クラス。 2 年次からは徹底したコース別教育を取り入れ、生徒一人ひとりの能力を高める指導を実践します。毎年、国公立大学に多数の合格実績をあげる原動力になっています。
準特進クラス	国公立大学や有名私立大学の受験を視野に入れた充実のカリキュラムで、やる気をしっかりサポート。生徒の意思を尊重した指導で、更なるレベルアップを促し、志望大学への現役合格を目指します。
進学クラス	有名私立大学を初めとする大学進学を中心に、適性に応じて幅広い進路へと導く進学クラス。マナー教育やクラブ活動・ボランティア活動も積極的に推進。個性と才能を伸ばし、更なる成長を促します。
トップアスリートクラス	推薦試験で入学する生徒を対象に２クラスで構成。全国的なスポーツ実績を誇るクラブ活動の充実を図るとともに、他のクラスと同様に大学進学を目指した授業を行います。スポーツと勉学の両方で頑張りたいと考える生徒たちを精一杯バックアップします。

３．進路サポート体制

(1) 自己マネージメントプログラム「夢橘（ゆめたちばな）」

自己マネージメントプログラム「夢橘」は、先輩たちの足跡に学び、一人ひとりの夢を本気で実現させる「勝利の方程式」の一つ。1 週間単位の生活プランノートで、各々の目標にあわせて「未来の計画」を書き込みます。毎週の総合的な学習の一環として、時間割に組み込まれており、クラス担任の指導のもと、前週の反省点と次週の計画を立てさせ、自主性を育てる細かな指導を実践します。

(2) 学習・進学サポート

いち早く「目標」を明確にして学ぶ意欲をかき立てるフォロー体制を確立し、土曜日や放課後に加え長期休暇中の特別講座を実施し、進学（合格）に向けての準備を万全にしています。
また、各種ガイダンスを実施して、勉強方法や受験までの心構え、受験動向などを早期から指導します。

(3) 入試対策

「小論文・面接対策」「資格取得指導」「予備校講座」「大学特別講義」等を実施することで多様化する大学入試に対応できる体制を整えています。

(4) データに基づく進路指導

生徒の成績を個別にコンピュータで管理・分析。各々のデータに基づき、数値やグラフと照らしあわせ、目標に向けて具体的な進路指導を展開します。各種データや情報は生徒や保護者に提供され、志望大学への指針を明確にして現役合格へと導きます。

⑸ 放課後・休暇中の学習フォロー

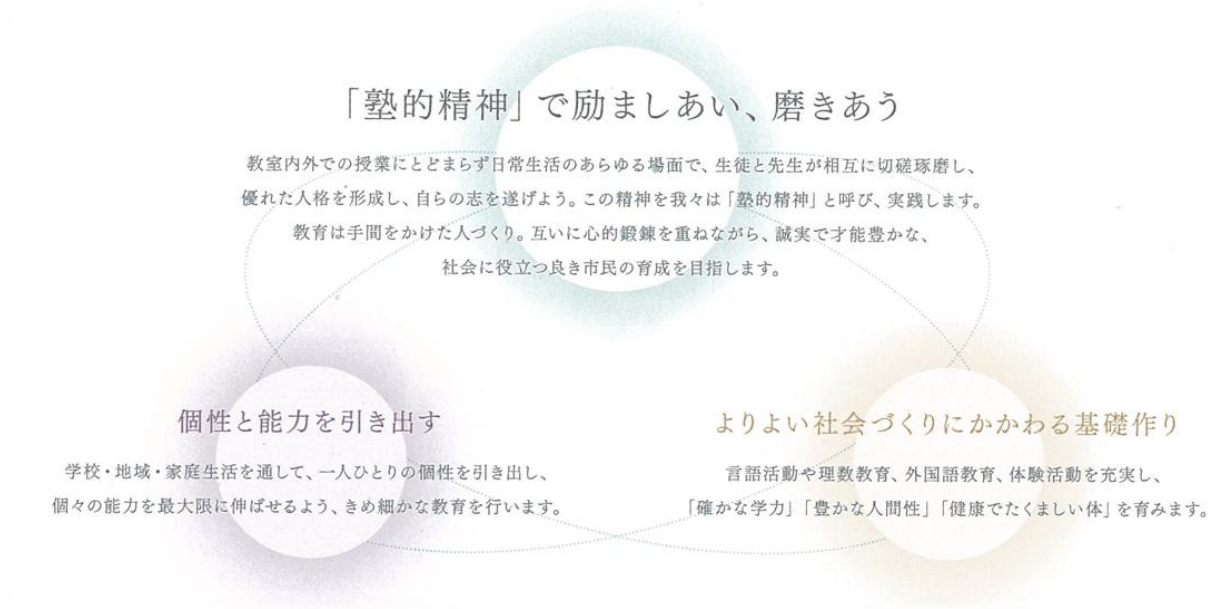
生徒一人ひとりの学習計画を踏まえて、昼休みや放課後、夏休み、冬休みなどの学習を支援します。生徒の習熟度や個性を熟知した教員が手厚く指導し、合格へと導きます。

[九州国際大学付属中学校]

１．教育概要

中学校では、「知・徳・体の調和のとれた生徒を育成」「個性や能力に基づいた希望進路の実現」を教育目標としています。教育活動全体を通して、良き市民たるに相応しい社会性を育てるとともに、豊富な体験型学習により個性豊かな人間性の涵養に努めること、また、基礎的な学力を習得させるとともに思考力・判断力・表現力・発表力を含めた確かな学力を培い、その結果に立って進むべき道を自ら自由に選択・決定することを教育方針として学校教育の充実に努めてまいります。

目指す生徒像として「志を高く持ち、意欲をもって学習に取り組む生徒」「優しさと思いやりの心をもって積極的に行動する生徒」「自らに厳しく、責任感を持って、たくましく活動する生徒」を掲げて、成長段階に応じた自立を促し、感性豊かな「人間力」を育てます。



２．教育活動の特色

合言葉を「K 点(思い込みによる自分の限界点)突破！」とし、成長の段階に応じた自立を促すとともに、感性豊かな「人間力」を育てます。

学年	目　標
中学１年	中学生としての自覚を持たせ、自主的な生活ができる生徒を育てます。 友達の良さを認め、その輪を広げ、互いに人間性を高め合う生徒を育てます。
中学２年	精神的な成長を促し、真の学力向上を図ります。 生活面や学習面において自分自身を知り、そのうえで「自分づくり」「仲間づくり」に全力を注げる生徒を育てます。
中学３年	生徒の目標進路の実現を支えます。 周囲の支えに感謝し、自己理解を深め、自分の限界(K 点)を越えられる生徒を育てます。

３．教科目標

磐石の学習体制と豊富な体験学習を軸として、人間形成と豊かな学力、基礎体力の向上を培う教育を行います。生徒一人ひとりの個性や能力を引き出し、希望進路の実現に向けて科目目標を設定し授業運営を行っていきます。

科目	目　標
国語	「言葉」に親しみ、「言葉」を身につけ、「言葉」によって豊かな知性や感性、人間性を育みます。また、文章で表現したり、論述したりすることに対して積極的な姿勢を養い、文章読解力を養成します。
数学	数学を学ぶ楽しさ・社会的有用性を感じることができる授業を展開し、数学的な見方や考え方を育てます。また、原理や法則の理解を深めるとともに、基礎的な技能を習得するためのドリル学習を充実させます。
社会	地理・歴史・公民の学習を通して、現代社会における様々な出来事を自ら考え分析する力、社会を構造的に理解できる力を養います。また、演習問題も多く取り組み、基本的な知識の定着と応用力の育成を目指します。
理科	自然に対する興味を持たせ、目的意識をもって実験・観察を行い、探求的に調べる能力と態度を育てます。また、グラフ作成やレポート作成、論述などを取り入れ、科学的な思考力や処理能力、論述力を育みます、
英語	英語学習を通して４技能(話す、聞く、読む、書く)を向上させるとともに、自分の意見を正確に伝え、相手の考えや気持ちを理解できるようなコミュニケーション能力を身につけます。また、グローバルな視野から、異文化を理解し尊重する態度を養い、かつ自国の文化をよりよく知り、次世代に継承していく精神を育みます。
音楽	幅広く音楽を演奏したり鑑賞したりすることにより、曲の構成や表現方法を感じ取る力の向上を目指します。また、音楽祭に向けた学級合唱の練習を通し、曲のイメージや各声部の役割を理解するとともに、協調の大切さを養い育てます。
美術	創り出す喜びを味わい、美術を愛好する心を育てるとともに豊かな感性や情操を養います。さらに、表現や鑑賞の幅広い活動を、学校行事や生活全般に広げていくことを目指します。
保健体育	心と体には密接な関係があることを学び、心身を磨き鍛えることによって、協力・共感・公平・公正・克己心・集中力など、何事も耐えうる心と体を育成します。また、健康の保持・増進を目指すとともに、生涯にわたってスポーツに親しむ資質を養います。
技術	「すらら」というパソコンソフトを使って、英語・国語・数学の学習を行います。授業の予習・復習から検定対策まで、一人ひとりの理解度に応じて出題される問題に取り組むことで、学習意欲を高めます。
家庭	自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・基本的な知識を見につけさせます。また、実習を通して手作りの温かさや大切さを体感し、豊かな生活を営むことのできる実践的な力を養います。
道徳	道徳の時間や教科、特別活動などの全ての教育活動の時間を通して、人間としてよりよく生きることの実現を目指します。生徒と共に考え、探求しながら、道徳的価値に基づく人間としての生き方・豊かな心・道徳的実践力などを育てます。
総合的な学習の時間	総合的な学習の時間では、さまざまな体験学習をより効果的なものにするために、事前の調べ学習やレポート作成などに取組みます。1・2 年では、体験・学習発表の準備を行い、3 年では、校長面接のための自己分析・エントリーシート作成などの時間にも使います。机の上の学習だけでは得られない体験を通して、想像力・思考力・発表力を育みながら「未見の我」の発見に努めます。

４．教育設計

充実した中学校生活を過ごし、確かな知力と徳力、体力を身につけ、より高い進路の実現を目指します。

中学生にとって「高校入試」は大切な目標であり、義務教育の学習を総まとめする絶好の機会です。本人と保護者が自由に高校を選択、決定し、入試に立ち向かわせるという方針を取り、ユニークな併設型教育を展開しています。近年、文武ともに目覚しい躍進を遂げている併設校である九州国際大学付属高等学校の高校生の熱気を肌で感じながら、毎日を過ごしています。また、進路希望に応じ、中学３年３学期には、内部進学者、外部受験者のクラスを編成し、両方に対応できるよう適切かつ効果的で柔軟な学習指導を行います。また、専門部として進路指導部を置き、人生設計支援に努めます。

Kyushu International University
学校法人　九州国際大学

発　行　／　学校法人　九州国際大学　法人事務局
〒805-8513　北九州市八幡東区平野二丁目 5-1
TEL：093-671-8900 /　FAX：093-671-9032